

【プレス・リリース】

報道関係各位

2011年5月24日
ナクソス・ジャパン株式会社

**ナクソス・ジャパン、ミュンヘン3大オーケストラ合同による復興支援演奏会
ズービン・メータ指揮『第九』のチャリティSACDを発売**

ナクソス・ジャパン株式会社（本社：東京都世田谷区、代表取締役：佐々木隆一）は、ミュンヘンの3つのオーケストラ共同主催によるチャリティ演奏会「ズービン・メータ『第九』～復興支援演奏会 in ミュンヘン」を収録したSACDを、日本国内限定で6月29日にリリースします。当アルバムによる収益の一部は日本赤十字社を通じ復興支援活動等資金として東日本大震災被災地へと寄付されます。

この演奏会は、興行収益の被災地への寄付を目的とし、ミュンヘンを代表する世界的な3つのオーケストラ（バイエルン国立管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団）によって企画・共催されました。3つの楽団から編成された合同オーケストラは、ミュンヘンと縁のある世界的名指揮者ズービン・メータ氏の下、バッハの「G線上のアリア」とベートーヴェンの交響曲第9番「合唱」を演奏しました。

ナクソス・ジャパンは、現地で演奏された上記2曲のライブ音源を収録した5.0チャンネルサラウンド対応のSACDをリリースします。SACDハイブリッド仕様のため通常のCDプレイヤーでの再生が可能です。（日本国外でのリリース予定はありません。日本国内向けリリースのみとなります。）

【チャリティ演奏会について】

2011年5月2日、ミュンヘンのガスタイク・フィルハーモニーにて行われました。ミュンヘンを拠点とする世界的なオーケストラ3団体が共催する形で実現。この3団体が合同オーケストラを組織して演奏会を開催するのは史上初の試みでした。チケットは発売開始からわずか4日間で完売。演奏会はバイエルン放送協会によって全世界にストリーミング配信で生中継されました。演奏会の興行収益は、日本赤十字社を通じて東日本大震災被災地へと贈られています。

【指揮者について】

ズービン・メータ（指揮）1936年インド・ボンベイ生まれ。ウィーン国立音楽院でハンス・スワロフスキーに師事し指揮法を学んだ。モントリオール交響楽団、ロスアンジェルス・フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団それぞれの音楽監督を歴任し、1998年からは8年に渡ってバイエルン国立歌劇場の音楽監督を務めた。2004年にはミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団の名誉指揮者に任命された。2008年には第20回高松宮殿下記念世界文化賞音楽部門を受賞している。

【商品概要】 URL <http://naxos.jp/special/no9munich>

商品タイトル：「ズービン・メータ『第九』～ 復興支援演奏会 in ミュンヘン」

発売日：2011年6月29日

カタログ番号：NYCC-27265

商品バーコード：4562240272655

ディスク形態：SACD ハイブリッド (5.0ch サラウンド／2.0ch ステレオ)

パッケージ：国内盤・デジパック仕様

店頭小売価格：2,625円 (税込)

録音日：2011年5月2日

録音場所：ミュンヘン・ガスタイクフィルハーモニー (ライブ録音)

収録曲：ヨハン・ゼバスティアン・バッハ：管弦楽組曲第3番より「アリア」

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン：交響曲第9番二短調作品125「合唱」

出演：アニヤ・カンペ (ソプラノ) リオバ・ブラウン (アルト)

クラウス・フロリアン・フォクト (テノール) ミヒャエル・フォツレ (バス)

バイエルン国立歌劇場合唱団、ミュンヘン・フィルハーモニー合唱団、バイエルン放送合唱団

バイエルン国立管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団

ズービン・メータ (指揮)

【制作・発売】

ナクソス・ジャパン株式会社 (バイエルン放送協会との共同制作)

(全国主要CDショップ、ECサイト他で発売予定。)

【本件に関するお問い合わせ】

ナクソス・ジャパン株式会社 音楽ソフト事業部 岡崎

Tel: 03-5486-5105 / Fax: 03-5486-5104 / E-mail : naxos@naxos.jp

〒154-0011 東京都世田谷区上馬 1-32-12 三井生命三軒茶屋ビル 4F

<http://naxos.jp>